

Ⅳ章 災害対策専門職員の育成

- 1 災害対策専門研修
- 2 フォローアップセミナー
- 3 防災スペシャリスト養成研修

当センターはその機能の一つとして、「災害対策専門職員の育成」を掲げており、地方自治体の首長や防災を担当する職員等を対象とする「災害対策専門研修」及び、同研修受講者を対象とする「フォローアップセミナー」を実施している。また、内閣府が実施する「防災スペシャリスト養成研修」への協力を行っている。

1 節 災害対策専門研修

1 項 全体概要

センターの人材育成事業のうち、「災害対策専門研修」は、地方自治体の首長を対象とする「トップフォーラム」、地方自治体の防災担当職員を主な対象とする「マネジメントコース」、「特設コース」に大別される。

「マネジメントコース」は、受講者の能力に応じてステップアップしていく体系をとっており、ベーシック、エキスパート、アドバンストの3コースに分類している。

また、「特設コース」は、テーマや対象者を絞り込んだ研修コースであり、令和5年度は、「こころのケアコース」のみ実施し、「エキスパート特設演習」、「減災報道コース」については令和6年能登半島地震のため、中止した。

なお、令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見据えながら、マネジメントコースのベーシックはオンライン開催、それ以外のコースは対面で実施した。地方自治体の首長等を対象としたトップフォーラムは、神奈川県及び鹿児島県の2県と共催し、現地で実施した。なお、奈良県においても実施予定であったが、令和6年1月1日発災の能登半島地震のため、中止した。

コース名	目 的	対 象
トップフォーラム	今後発生する災害に対し、地方自治体のトップに求められる対応能力の向上を図る。	知事、市区町村長
マネジメントコース ベーシック	阪神・淡路大震災等の経験を踏まえた各部門の災害対策のあり方など基礎的な事項について体系的に学習する。	地方自治体における防災・危機管理担当部局の職員のうち経験年数の浅い者
マネジメントコース エキスパートA・B	災害対応の具体的事例や演習などを通して、大規模災害発生時に各種対応が同時並行的に展開する状況を横断的・総合的にとらえ、これに対処する能力の向上をめざす。	地方自治体における防災・危機管理担当部局の職員(ベーシック修了者若しくは同等の知識を有する者又は防災業務に通算1年以上従事している者)
マネジメントコース アドバンスト ／特設コース「防災監・危機管理監コース」	大規模災害発生時に政策的な判断を迫られる事項等について演習・講義等で学び、地方自治体のトップを補佐する者としての能力の向上をめざす。	地方自治体における防災・危機管理担当部局の職員のうち、災害対策本部の中核的な役割を果たそうとする者(エキスパート修了者又は同等の知識を有する者) 防災監・危機管理監、防災部局の長 他

特設コース エキスパート特設演習	防災対策上の重要な課題である部署間連携、越境について理解を深め、状況予測型図上訓練を各自治体で実践する能力を修得する。	地方自治体における防災・危機管理担当部局の職員（エキスパートA、エキスパートB、アドバンストのいずれかの修了者）
特設コース 減災報道コース （減災報道研究会）	行政、報道機関、研究者が減災社会の実現のため、互いに理解し合い、連携できる道を探る。	地方自治体の防災担当者（防災・広報部局）、報道関係者、防災研究者など
特設コース こころのケアコース	兵庫県こころのケアセンターとの共催により、災害発生時のこころのケア対策のあり方について理解を深める。	地方自治体の精神保健福祉担当者など

災害対策専門研修の応募状況

(単位：人)

コース	区分	2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)
ベーシック	応募者	129	117	114	141	143
	定員	70	95	70	70	120
	受講者	69	83	86	117	84
エキスパート（春）	応募者	74	中止	53	108	71
	定員	40		56	40	80
	受講者	55		31	97	63
エキスパート（秋）	応募者	79	72	79	60	54
	定員	40	56	56	100	72
	受講者	50	52	58	59	52
アドバンスト	応募者	37	28	22	33	29
	定員	20	28	28	20	40
	受講者	29	24	7	30	26
図上訓練／広報コース	応募者	－	－	－	－	－
	定員	－	－	－	－	－
	受講者	－	－	－	－	－
エキスパート特設演習	応募者	20	中止	中止	38	中止
	定員	20			38	
	受講者	15			38	

※受講者数については、一定の出席要件を充足し、受講証明書を授与した者を計上している。

2項 各研修実施内容

1 災害対策専門研修「トップフォーラム」

地方自治体の首長等を対象としたトップフォーラムは、神奈川県及び鹿児島県の2県と共催し、現地で実施した。なお、奈良県においても実施予定であったが、令和6年1月1日発災の能登半島地震のため、中止した。

研究成果による知見等をもとに今後発生する災害に対し各自治体のトップに求められるリーダーシップや目標管理型の災害対応の必要性などについて講義や演習を行い、自治体の防災・危機管理体制の一層の充実を図った。

(1) 内容

ア トップフォーラム in 神奈川

- ① 日 時：令和5年8月1日（火）13：00～17：15
- ② 場 所：神奈川県職員キャリア開発支援センター
- ③ 参 加 者：講義の部：26人、演習の部：23人
神奈川県副知事、神奈川県幹部、神奈川県内の市町村長、副市町長、市町防災幹部等
- ④ 内 容：カリキュラムの詳細は参考資料（167頁）に掲載

イ トップフォーラム in 鹿児島

- ① 日 時：令和5年11月6日（月）13：00～17：05
- ② 場 所：事前視聴（オンライン）、ホテル自治会館
- ③ 参 加 者：講義の部：37人、演習の部：34人
鹿児島県幹部、鹿児島県内の市町村長、副市町長、市町防災幹部等
- ④ 内 容：カリキュラムの詳細は参考資料（168頁）に掲載

ウ トップフォーラム in 奈良

令和6年1月1日発災の能登半島地震のため、中止



講義の様子



演習の様子



模擬記者会見の様子

(2) 評価（受講者の声）

ア 研修内容に関する満足度（100点満点）84.4点（2県平均）

イ 参加者の具体的意見

- ・我々が想定しているよりも、大きな被災状況での記者対応は、大変有効。今後役立てていきたい。
- ・目標管理型災害対応の手法については、基本的ではあるが、奥が深いものであると考える。
- ・記者会見が良かった。失敗を恐れずにチャレンジしたい。

2 災害対策専門研修「マネジメントコース」

マネジメントコースでは、最終目標として「首長に対して的確なアドバイスが提示できる」人材の育成を掲げ、受講者の能力に応じてステップアップしていくことができるコース体系を組んでいる。

また、カリキュラムについては、最終目標を念頭に、①防災の中核を担う人物に必要な能力及び知識の洗い出し、②その能力及び知識を身につけさせるための具体的な講義方法の検討、③各レベル（ベーシック、エキスパート、アドバンスト）への講義の振り分け及び重複するものの精査、と手順を踏んで設計し、各レベルで必要となる能力及び知識の明確化等を図っている。

なお、令和5年度においては、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見据えながら、マネジメントコースのベーシックはオンライン開催、それ以外のコースは対面で実施した。

(1) コース別受講者数※1

(単位：人)

ベーシック ※2	春 期		5/31（水）～ 6/ 2（金）	84
エキスパート ※2	春 期	A	6/ 6（火）～ 6/ 9（金）	31
		B	6/13（火）～ 6/16（金）	32
	秋 期	A	10/16（月）～ 10/19（木）	29
		B	10/10（火）～ 10/13（金）	23
	エキスパート 小計			115
アドバンスト/ 防災監・危機管理監 ※2	春 期		6/20（火）～ 6/21（水）	26

※1 受講者数については、一定の出席要件を充足し、受講証明書を授与した者を計上している。

※2 定員は春期はベーシック 120 人、エキスパート A・B、アドバンスト／防災監・危機管理監コース各 40 人、秋期はエキスパート A・B 各 36 人

(2) 受講者の所属

(単位：人)

区分	都道府県	市区町村	国	その他	合計
兵庫県	1	23			24
近畿地方（兵庫県を除く）	4	54			58
北海道		3			3
東北地方	5	8			13
関東地方	11	11			22

中部地方	6	47		53
中国・四国地方	8	28		36
九州地方		16		16
合計	35	190		225
団体数	17	126		143

※ 近畿・関東・中部地方を中心として、全国各地から参加があった。また、市町職員を中心として、府県職員からも参加があった。

(3) 内 容

カリキュラムの詳細については、参考資料に掲載した。

なお、カリキュラムに掲載の所属・役職はその出講当時のものである。

【出講講師一覧】

※外部講師は氏名五十音順

講師所属	講師役職	講師氏名
人と防災未来センター	センター長	河田 恵昭
人と防災未来センター	上級研究員	岩田 孝仁
人と防災未来センター	上級研究員	片田 敏孝
人と防災未来センター	上級研究員	越山 健治
人と防災未来センター	上級研究員	高鳥毛敏雄
人と防災未来センター	上級研究員	武田 文男
人と防災未来センター	上級研究員	田村 圭子
人と防災未来センター	上級研究員	牧 紀男
人と防災未来センター	上級研究員	山崎 登
人と防災未来センター	上級研究員	渡辺 研司
人と防災未来センター	客員研究員	清野 純史
人と防災未来センター	客員研究員	福和 伸夫
人と防災未来センター	客員研究員	矢守 克也
人と防災未来センター	主任研究員	高原 耕平
人と防災未来センター	主任研究員	正井 佐知
人と防災未来センター	主任研究員	林田 怜菜
人と防災未来センター	研究員	山崎真梨子
人と防災未来センター	研究員	山口 章子
人と防災未来センター (銀座パートナーズ法律事務所 / 岩手大学地域防災研究センター / 北海道大学公共政策学研究センター)	特別研究調査員 (弁護士・博士(法学) 客員教授 上席研究員)	岡本 正
人と防災未来センター	研究調査推進員	坂本 誠人
人と防災未来センター	研究調査員	塩津 達哉
人と防災未来センター (株) エービーシー・リブラ)	リサーチフェロー (気象情報デスク)	木戸 崇之
人と防災未来センター (関西国際大学)	リサーチフェロー (客員教授)	斉藤 容子
人と防災未来センター (兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科)	リサーチフェロー (教授)	阪本真由美
人と防災未来センター (大阪公立大学大学院文学研究科)	リサーチフェロー (准教授)	菅野 拓

人と防災未来センター (国土館大学防災救急救助総合研究所)	リサーチフェロー (准教授)	中林 啓修
人と防災未来センター (名古屋大学減災連携研究センター)	リサーチフェロー (准教授)	平山 修久
人と防災未来センター (伊勢市危機管理部危機管理課)	リサーチフェロー (主査)	藤原 宏之
人と防災未来センター (前長野県危機管理部危機管理防災課)	リサーチフェロー (火山防災幹)	古越 武彦
人と防災未来センター (兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科)	リサーチフェロー (准教授)	松川 杏寧

講師所属	講師役職	講師氏名
神戸地方気象台	防災気象官	天野 智裕
兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 (元芦屋市市長室室長 / 前熊本県益城町危機管理監)	客員研究員	今石 佳太
防災科学技術研究所 総合防災情報センター	センター長	白田裕一郎
兵庫県こころのケアセンター	上級研究主幹	大澤 智子
神戸市看護大学看護学部 基盤看護学 災害看護・ 国際看護学分野 / 高知県立大学看護学部	教授 / 特任教授	神原 咲子
兵庫県立大学環境人間学部 大学院環境人間学研究科	教授	木村 玲欧
飯田市危機管理課	課長	後藤 武志
神戸市危機管理室	係長	近藤 充
関西国際大学(元兵庫県防災監)	特命教授	齋藤 富雄
東北大学災害科学国際研究所	准教授	佐藤 翔輔
南三陸町	町長	佐藤 仁
兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科	准教授	澤田 雅浩
常葉大学	名誉教授	重川希志依
広島市危機管理室	専門監	高野 靖欣
香川大学創造工学部	准教授	竹之内健介
内閣府政策統括官(防災担当) 付 参事官(防災デジタル・物資支援担当) 付	参事官補佐	塚 偉
特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支 援団体ネットワーク (JVOD)	事務局長	明城 徹也
株式会社サイエンスクラフト	防災部長	元谷 豊
株式会社 NX 総合研究所	シニアコンサルタント	矢野 裕之
関西大学社会安全学部	教授	山崎 栄一

(4) 評 価 (受講者の声)

受講者から提出された評価レポートによる評価は以下のとおりである。

◆ 研修全体に対する満足度の点数評価 (100 点満点) の平均は 91.1 点であり高い評価を得た。

◆ 特に、次の講義や演習が高い評価を得た。

<講義>

- ・ベーシックコース：「災害対応各論 (住民協働と主体性)」、「行政における災害対応業務の実際」
- ・エキスパート A コース：「危機対応時の組織論 (情報システム)」、「危機対応時の組

織論（戦略的な広報について）」

- ・エキスパート Bコース：「図上訓練設計」、「地域防災計画論」
- ・アドバンスト／防災監・危機管理監コース：「行政対応特論」等

<演習>

- ・エキスパート Aコース：「災害対応ワークショップ」
- ・エキスパート Bコース：「災害対策本部の空間構成設計演習」
- ・アドバンスト／防災監・危機管理監コース：「災害対応検討ワークショップ」等

◆ベーシックコース受講生からの意見

- ・「空振りは許されるが見逃しは許されない」常にこの意識を持って業務に取り組んでいきたいと感じた。
- ・災害初動期から復旧・復興期という幅広い災害対応の中のそれぞれのフェーズにおける基本的な部分を知ることができた。

◆エキスパートコース受講生からの意見

- ・非常に内容が濃い4日間で災害対策に関する幅広い知識を総合的に習得することができ、積極的に組織に還元して災害対応力の強化につなげたい。
- ・ある程度知識がある中で受講できたので、不足している部分や強みを再確認できた。研究者の最新の知見に接することで日ごろの悩みの解決の糸口を見出すことができた。

◆アドバンスト／防災監・危機管理監コース受講生からの意見

- ・事例による説明がとても分かりやすく、説得力があった。実体験に勝る講義はないと感じた。
- ・最前線でご活躍の方々の話を聞くことができ大変刺激的だった。様々な地域の方々と知り合うことができ、普段と違った仲間と行動できた。



演習の様子



受講生の様子

(5) Disaster Manager

災害対策専門研修の一層の普及を図るため、平成 19 年度から研修修了者に対して、「Disaster Manager」の称号を付与し、Disaster Manager カードを発行している。(平成 14 年度～ 18 年度の研修修了者にも平成 19 年度に発行済)

- ・エキスパート（シルバーカード）：エキスパート A・B 両方を修了した者
- ・アドバンスト（ゴールドカード）：エキスパート A・B 両方を修了し、かつアドバンストを修了した者

令和 6 年 3 月末現在	エキスパート（シルバーカード）	437 人
	アドバンスト（ゴールドカード）	76 人

(6) 災害対策専門研修サポーター

Disaster Manager 授与者の中から、災害対策専門研修サポーターとして参加する意欲のある者（原則として、現在も行政機関において防災関係業務を担っている者）を登録し、登録者の中から研修コースの担当者を選考している。

サポーターには、演習のファシリテーター等の研修補助や研修内容の充実を図るための助言を依頼するとともに、受講者間の交流を支援していただき、自治体災害対応職員のネットワークの拡充を図っている。

- ・令和5年度登録者：39人
- ・対象の研修コース：ベーシック、エキスパートA・B、エキスパート特設演習
- ・令和5年度サポーター参加者：8人（春エキスパートA・B研修：4名、
秋エキスパートA・B研修：4名）

3 災害対策専門研修 特設コース

テーマ、目的、対象者を絞り、災害対応の個別課題等に対する対応能力を向上させるための特設研修をこころのケアコースのみ実施、その他のコースは令和6年能登半島地震のため、中止した。

(1) エキスパート特設演習

令和6年能登半島地震のため、中止

(2) 減災報道コース（減災報道研究会）

令和6年能登半島地震のため、中止

(3) こころのケアコース

兵庫県こころのケアセンターとの共催により、災害発生時のこころのケア対策のあり方について理解を深めるため、研修を実施した。当センターでは、山崎研究員が出講したほか、語り部による講話などを行った。

- ① 日 時：令和5年8月23日（水）・24日（木）
- ② 受講者数：18人
- ③ 受講者の所属：兵庫県及び近畿を中心に参加があった。

（単位：人）

区分	兵庫県	近畿 (兵庫県を除く)	北海道 東北	関東	中部	中国 四国	九州	合計
人数	6	4	0	1	4	0	3	18

④ 内 容

【カリキュラム】

<1日目> 令和5年8月23日（水）

- ・開講・オリエンテーション
- ・「『こころのケア』とは」
講師：桃田 茉莉 兵庫県こころのケアセンター 特別研究員
- ・「災害時における容配慮者への対応」
講師：山崎 真梨子 人と防災未来センター 研究員
- ・人と防災未来センター語り部講話
語り部ボランティア：佐々木 勉

＜2日目＞令和5年8月24日（木）

- ・「サイコロジカルファーストエイド」

講師：大澤 智子 兵庫県こころのケアセンター 上席研究主幹

- ・「サイコロジカルファーストエイド」（演習を含む）

講師：大澤 智子 兵庫県こころのケアセンター 上席研究主幹

2節 フォローアップセミナー

「災害対策専門研修」を通じて培われた人的ネットワークをより強固なものにするとともに、最近の災害から得られた教訓・知見の共有化を図る機会として、令和5年度と同研修受講者並びに災害対策専門研修サポーターを対象にフォローアップセミナーを実施する予定であったが、令和6年能登半島地震のため、中止した。

3節 防災スペシャリスト養成研修

1項 全体概要

国、地方公共団体、指定公共機関の職員を対象に、受講者の経験や能力に応じた災害対応業務を遂行する上で必要な知識やスキルを習得させるため、平成25年度から内閣府が実施している「防災スペシャリスト養成研修」に対し支援・協力を行った。

全10コースのうち、地域の災害リスクと法制度・計画に関する研修として「①防災基礎」コースはリモートで、災害対策に関する研修として「②災害への備え」、「③警報避難」、「④応急活動・資源管理」、「⑤被災者支援」、「⑥復旧・復興」の5コース、組織運営に関する研修として「⑦指揮統制」、「⑧対策立案」、「⑨人材育成」の3コース、防災政策に関する研修として「⑩総合監理」コースの演習は対面で、その他はリモートで、8月からの第1期、12月からの第2期の年2回開催した。

また、地方公共団体等の職員を対象に、各地域の災害発生上の特性を踏まえたテーマを設定し、各地域の災害対応に必要な知識と態度の習得を図ることを主眼とする「地域研修」を、徳島、奈良、鳥取、青森、岡山の5県において、演習は対面で、その他はリモートで開催した。

研修名	内 容
地域の災害リスクと法制度・計画に関する研修	防災活動に取り組むうえで当然知っておくべき「活動の前提（地域の災害リスクと法制度・計画）」を習得する。 「①防災基礎」※令和5年度より受講必須
災害対策に関する研修 全5コース	防災基本計画に規定する、予防、応急、復旧・復興それぞれの防災活動を行う上で不可欠な事項や情報を習得する。 「②災害への備え」 「③警報避難」 「④応急活動・資源管理」 「⑤被災者支援」 「⑥復旧・復興」
組織運営に関する研修 全3コース	組織運営に関する計画立案・広報・活動調整・実行管理の4つの防災活動の活動遂行能力（技能、態度）を習得する。 「⑦指揮統制」 「⑧対策立案」 「⑨人材育成」
防災政策に関する研修	総合的な防災政策を実施するために必要な知識を習得する。 「⑩総合監理」
地域研修	地方公共団体等の職員を対象に、各地域の災害発生上の特性を踏まえたテーマを設定し、各地域の災害対応に必要な知識と態度を習得する。 全国5県（徳島、奈良、鳥取、青森、岡山）

第4階層の色凡例 ☐ 総論 ☐ 座学 ☐ 演習 ☐ 全体討論



V章 交流・ネットワーク

- 1 国際防災・人道支援協議会の活動
- 2 友の会
- 3 防災・減災の普及啓発活動

研究活動等を通じた学術交流のネットワークや研修事業OB等とのネットワークなどの人的ネットワークの形成に努めるとともに、神戸東部新都心（HAT 神戸）に立地する防災関係機関との連携を進めるなど、人と人、機関と機関の交流・ネットワークを通じた事業を展開している。

1 節 国際防災・人道支援協議会の活動

1 項 概要

神戸東部新都心（HAT 神戸）を中心に立地する防災や人道支援など多様な国際的機関が連携を図り、それぞれの機関がその機能を効果的に発揮し、国際的な防災・人道支援活動に貢献することを目的として活動している。

- (1) 名 称 国際防災・人道支援協議会
(英語名称：Disaster Reduction Alliance (DRA))
- (2) 設立年月日 平成 14 年 10 月 10 日
- (3) 事 務 局 人と防災未来センター (DRI)
- (4) 構成メンバー 会員 20 機関、オブザーバー 7 機関（令和 5 年度末現在）

【会員】

アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）センター
 アジア防災センター（ADRC）
 神戸地方気象台
 神戸赤十字病院
 国際エメックスセンター（EMECS）
 国際協力機構（JICA）関西センター
 国際復興支援プラットフォーム（IRP）
 国連防災機関（UNDRR）神戸事務所
 国連人道問題調整事務所（OCHA）神戸事務所
 世界保健機関健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター）
 地球環境戦略研究機関（IGES）関西研究センター
 日本赤十字社兵庫県支部
 人と防災未来センター（DRI）
 兵庫県国際交流協会（HIA）
 兵庫県こころのケアセンター（HITS）
 兵庫県災害医療センター（HEMC）
 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科
 兵庫県立大学 防災教育研究センター
 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構（Hem21）
 兵庫耐震工学研究センター（E-Defense）

【オブザーバー】

内閣府参事官（普及啓発・連携担当）
 外務省地球規模課題総括課
 外務省緊急・人道支援課
 兵庫県
 兵庫県立大学
 兵庫県立美術館
 神戸大学

2項 活動

国際防災・人道支援フォーラム 2024 や故大島賢三元国連大使を偲ぶシンポジウム等を開催するとともに、代表者会議等を通じて情報共有を行った。

1 国際防災・人道支援フォーラム 2024

(1) 開催概要

阪神・淡路大震災を経験した神戸で国際的に防災・減災活動を行っている国際防災・人道支援協議会（DRA）は、構成機関が連携して毎年フォーラムを開催し、安全で安心な減災社会実現に向けた提言を、国内外に発信し続けている。

今年度は、1999年の大地震から25年の節目を迎えた台湾から防災専門家を迎え、SDGsと減災社会について考える内容のフォーラムを開催した。

主 催 国際防災・人道支援フォーラム実行委員会

日 時 令和6年1月23日（火）13:30～16:30

テ ー マ 「SDGsと減災社会～災害に強い持続可能な社会を実現していくために～」

開催方法 会場：神戸ポートピアホテル 偕楽の間 参加者 約120人

オンライン：YouTube 配信（日英同時通訳）

再生回数 547回（令和5年度末現在）

(2) 内容

① 基調講演

・演題 「多文化な日常がつなぐ持続可能な防災」

・講師 阪本 真由美 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授

② 特別講演

・演題 「台湾 921 地震からの 25 年間における防災システムの軌跡」

・講師 邵 珮君 台湾銘伝大学都市計画・防災管理学科教授

③ パネルディスカッション

・テーマ 「SDGsと減災社会」

<ファシリテーター>

田村 圭子 新潟大学危機管理本部危機管理センター教授
人と防災未来センター上級研究員

<パネリスト> 基調講演者・特別講演者に加え、

児玉 美樹 アジア防災センター（ADRC）研究部部長

遠藤 英二 兵庫県防災監兼危機管理部長
関西広域連合広域防災局長

河田 恵昭 国際防災・人道支援フォーラム実行委員会委員長
人と防災未来センター長



2 故大島賢三元国連大使を偲ぶシンポジウム

(1) 開催概要

神戸東部副都心（HAT 神戸）における防災・人道支援の国際的拠点の形成に寄与し、国連大使、国連事務次長を歴任するなど国際人道支援分野で多大な功績を残された故人を偲び、感謝の意を表するとともに、国際的な防災・人道支援活動のより一層の推進を図ることを目指してシンポジウムを開催した。

主 催 国際防災・人道支援協議会（DRA）

共 催 独立行政法人国際協力機構（JICA）、（公財）ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

日 時 令和 5 年 5 月 22 日（月）13：30～16：50

開催方法 会場：人と防災未来センター 東館 1 階 こころのシアター 参加者 94 人
オンライン：YouTube 配信 再生回数 603 回（令和 5 年度末現在）

(2) 内容

① 基調講演 1

・演題 「大島賢三氏と兵庫県」

・講師 井戸 敏三 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構特別顧問（前兵庫県知事）

② 基調講演 2

・演題 「『大島外交』のレガシーとこれからの国際協力・人道支援」

・講師 星野 俊也 国連合同監査団（JIU）監査官

③ パネルディスカッション

<モデレーター>

五百旗頭真 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構理事長

<パネリスト>

阿南 惟茂 元駐中国日本国特命全権大使

芹田健太郎 神戸大学名誉教授

河田 恵昭 人と防災未来センター長

宮崎 桂 独立行政法人 国際協力機構（JICA）理事



3 国際防災・人道支援協議会（DRA）活動報告会

(1) 開催概要

復興のシンボル・プロジェクトのひとつとして整備された神戸東部新都心（HAT 神戸）の意義やそこを中心に集積する「国際防災・人道支援協議会（DRA）」を構成する団体の活動等を地域住民など広く県民に紹介することで、DRA としての総合的な発信力を高めるとともに、各機関の連携をより一層強化し、活動の更なる活性化を図るため、「国際防災・人道支援協議会（DRA）活動報告会」を開催した。

主 催 国際防災・人道支援協議会

日 時 令和 5 年 10 月 5 日（木）15：00～16：50

テ ー マ 「持続的な国際貢献をめざして～世界の期待に応える DRA の活動～」

開催方法：会場：JICA 関西 2 階 ブリーフィングルーム 参加者 45 人
 オンライン：YouTube 配信 再生回数 245 回（令和 5 年度末現在）

（2）内容

- ① 基調講演 1
 - ・演題 「複合的危機下の世界における JICA の取組」
 - ・講師 木村 出 国際協力機構関西センター（JICA 関西）所長
- ② 基調講演 2
 - ・演題 「当研究科の国際化に向かって」
 - ・講師 青田 良介 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授
- ③ 団体発表
 - ・池田 誠 アジア防災センター主任研究員
「宇宙技術を用いたトルコ・シリア地震への貢献と国際協力」
 - ・吉田 明子 国連人道問題調整事務所（OCHA）神戸事務所長
「国際緊急人道支援 近年の傾向と OCHA の取り組み」
- ④ 総括
 - 河田 恵昭 人と防災未来センター長



4 代表者会議

協議会を構成する各機関代表者により実施した。

- ・日時 令和 5 年 10 月 5 日（木）13：30～14：45
- ・場所 JICA 関西 2 階 体育館
- ・内容 会長の選任、令和 4 年度の事業報告、令和 5 年度の事業計画 等

2節 友の会

1項 概要

人と防災未来センター友の会は、センターと連携し、防災の重要性や共に生きることの素晴らしさを学ぶとともに、災害時における諸活動への支援や社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立された。

令和5年度会員数は、個人会員38名、法人会員2法人であった。

2項 令和5年度の事業について

1 総会の開催

- (1) 開催日：令和5年7月13日（木）
- (2) 場 所：人と防災未来センター セミナールームA

2 友の会主催事業

- (1) 講演会
日 時：令和5年7月13日（木）14：10～15：10
場 所：人と防災未来センター ガイダンスルーム
- (2) 防災施設見学会
開催日：令和5年11月18日（土）
見学施設：稲むらの火の館（和歌山県広川町）
- (3) 被災地支援事業
開催日：令和5年12月18日（月）～12月22日（金）
場 所：宮城県石巻市、栗原市、気仙沼市、南三陸町内の保育所、幼稚園、小学校等
内 容：NPOひまわりの夢企画のひまわりサンタプロジェクトへの協力
（サンタクロースに扮して、長靴型のクリスマスプレゼントを東日本大震災被災地の子どもたちにプレゼント）

3 会員による自主防災活動への支援

- (1) 防災学習・啓発資料の提供
会員に対する、防災学習書籍の貸出
- (2) 法人会員 防災活動支援助成制度
法人会員の防災力向上に資することを目的として、法人会員が社員を対象に主催する防災研修で招く講師にかかる謝金等の1／2（ただし、上限3万円）を助成
- (3) 地域防災活動の情報発信
会員から提供された会員による地域防災活動をホームページに掲載して広く情報発信

4 情報配信事業

会員に対して、文書により人と防災未来センター及び21世紀研究機構の各種イベントを紹介するとともに、刊行物を送付した。

- (1) 紹介したイベント
ア 夏休み防災未来学校2023
イ 防災100年ものがたり（絵本の原案）募集（第2回）
ウ ひょうご講座2023
エ 企画展 関東大震災100年。「100年前と今。都市における大災害に備えよう！」



- オ ALL HAT 2023
 - カ 東日本大震災・原子力災害伝承館出張展「東日本大震災と福島の実験を伝える」
 - キ 国際防災・人道支援協議会（DRA）活動報告会
 - ク 令和5年度 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」
 - ケ 災害メモリアルアクション KOBE2024
 - コ 国際防災・人道支援フォーラム 2024
 - サ HAT 神戸連携防災イベント イザ！美かえる大キャラバン 2024
 - シ 人と防災未来センター 資料室企画展
- (2) 送付した刊行物
- ア ひょうご震災記念 21 世紀研究機構ニュース「Hem21」
 - イ 人と防災未来センター 資料室ニュース

5 会員の加入促進

- (1) 入会案内チラシの配布及び配置
- 当センター西館 1 階 総合案内前及び 2 階 防災未来ギャラリー前の通路に入会案内チラシを設置
- (2) 人と防災未来センターホームページによる入会案内
- (3) 会員への情報提供の際、家族・友人への入会勧誘を依頼

【参考】会員特典

- ア 無料入館
 - ①個人会員…会員証の提示により無料入館可、無料招待券 3 枚進呈
 - ②法人会員…無料招待券 50 枚進呈
- イ 新規入会者への図録の進呈

3節 防災・減災の普及啓発活動

1項 交流イベント

1 防災 100 年えほんプロジェクト

世界のあらゆる国の幼児から高齢者まで全ての人に役立つ防災絵本を制作し、国内外への普及啓発による災害に負けない生活習慣づくり（災害文化の創造）を目指す取り組みを推進した。

ア 防災 100 年えほん出版記念フォーラム 2024

プロジェクト初のオリジナル絵本 3 冊の出版を記念して、出版記念フォーラムを開催。

開催日時：令和 6 年 3 月 17 日（日） 14：00～16：00

開催場所：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 東館1階 こころのシアター

主催：防災 100 年えほんプロジェクト実行委員会

＜構成団体＞

ひょうご安全の日推進県民会議

公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

内容：第 1 部（14：00～）

・関係者挨拶

斎藤元彦氏（兵庫県知事・ひょうご安全の日県民推進会議 会長）

竹下景子氏（俳優・こども本の森 神戸 名誉館長）

・防災 100 年ものがたり（第 2 期）入選作品表彰

・防災 100 年えほん（第 1 期）出版絵本の報告・披露

第 2 部（15：10～）

・防災 100 年えほんトーク・リレー

古賀涼子氏（アナウンサー・防災絵本専門士・「防災絵本」のコレクター）

住田功一氏（大阪芸術大学教授・防災 100 年ものがたり選定委員）

池上三喜子氏（公益財団法人市民防災研究所理事・特別研究員・防災 100 年ものがたり選定委員）

瀬戸真之氏（東日本大震災・原子力災害伝承館 学芸員）

マリ・エリザベス氏（東北大学 災害科学国際研究所 准教授・人と防災未来センターリサーチフェロー）

・挨拶

河田恵昭氏（防災 100 年えほんプロジェクト実行委員長・人と防災未来センター長）



齋藤知事挨拶



登壇者記念撮影



トーク・リレー



河田センター長挨拶

イ 防災絵本の制作

[第1期 (R4～R5)]

絵本化コンペ結果発表 令和5年8月8日(火)

絵本出版(3作品) 令和6年3月17日(日)

タイトル	たったひとつのおやくそく	おじぞうさんのおけしやがかり	ぼうさいバッグのちいさなポケット
原案者	横林良純	御崎あおい	たかますあやか
絵本著者	金澤 麻由子	たさききょうこ	twotwotwo (ににに)
表紙			
内容	「大きな地震が起きたらどうする？」まりちゃんはお母さんと大切な約束を交わしました。	海辺の街を見下ろす丘に通うおばあさん。ある日、出会った子どもたちにその理由を打ち明けます。	いつもお父さんが向かう倉庫。興味津々のまーくんは、ある日、後を追って中をのぞいてみます。

[第1期] 出版絵本3冊

[第2期 (R5～R6)]

絵本の原案募集：令和5年9月1日(金)～令和5年11月5日(日)

応募数：68作品

入選数：6作品

選定委員：河田 恵昭(人と防災未来センター長)

竹下 景子(俳優)

住田 功一(大阪芸術大学放送学科教授・元NHKアナウンサー)

池上 三喜子(公益財団法人市民防災研究所理事・特別研究員)

山田 千夏(神戸の絵本専門店「えほんのトコロ」店主)

2 災害メモリアルアクションK O B E 2024

(1) 趣旨

「災害メモリアルK O B E」の後継事業として、平成27年度からこの先の10年を見据えながら、「災害メモリアルアクションK O B E」という事業を行っている。

学生の防災・減災活動を通じて、災害教訓を「活かす」ことができる人材を育成するとともに、防災の取組をいろいろな地域・世代へ広げていく事例をまとめ、今後の防災・減災に寄与することを目的としている。

今年度も、「K O B Eのことば」をテーマに、グループ単位で参加を希望した学生(10グループ)が阪神・淡路大震災で被災した地域などにおいて、インタビュー、アンケート、

交流事業などを企画・実施した。

それらの取組について、報告会を開催し、今後の防災に「活かす」ための事例を紹介するなど、今後の活動について考えた。

(2) 実行組織

- ア 主催
人と防災未来センター、京都大学防災研究所
- イ 共催
京都大学防災研究所自然災害研究協議会近畿地区部会
- ウ 企画
災害メモリアルアクションK O B E企画委員会（事務局：事業部普及課）
委員長 牧 紀男（京都大学防災研究所教授、人と防災未来センター上級研究員）

(3) 報告会

- ア 日 時 令和6年1月6日（土）10：00～13：15
- イ テ ー マ 「K O B Eのことば」
- ウ 会 場 人と防災未来センター 西館1階ガイダンスルーム 参加者 約110人
- エ プログラム

災害メモリアルアクションK O B E 2 0 2 4 活動報告会

<開会・挨拶>

牧 紀男（災害メモリアルアクションK O B E企画委員会委員長）

<活動発表>

兵庫県立舞子高等学校

滋賀県立彦根東高等学校

兵庫県立尼崎小田高等学校

T E A M－3 A

国立明石工業高等専門学校D－P R O 135°（明石高専防災団）開発チーム

国立明石工業高等専門学校D－P R O 135°（明石高専防災団）地域連携チーム

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ

神戸学院大学 クローズアップ社会研究会

関西大学 社会安全学部 奥村研究室

兵庫県立大学 防災リーダー教育プログラムチーム

<パネルディスカッション「これからの『報せる』は？」>

「報せる」には一方通行のイメージがあるが、現在「双方向」「つながる」という観点も重要となっている。その方法論にとどまらず、モノの持つ力といった多様な視点から未災者が未災者に「報せる」ことのこれから、について考えた。

【コーディネーター】

本塚 智貴（国立明石工業高等専門学校准教授）

塩津 達哉（人と防災未来センター研究調査員）

【グラフィックファシリテーター】

多田 裕亮（大阪防災プロジェクト共同代表）

山越 香恋

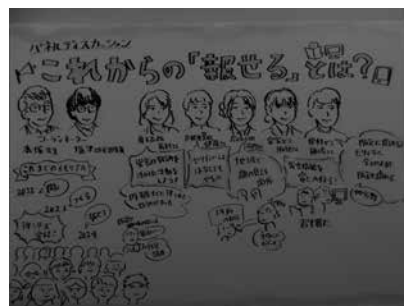
【パネリスト】

兵庫県立舞子高等学校、滋賀県立彦根東高等学校、兵庫県立尼崎小田高等学校、神戸学院大学（安富ゼミ）、関西大学社会安全学部奥村研究室から学生代表各1名

<閉会・挨拶（講評）>

河田 恵昭

（災害メモリアルアクションK O B E企画委員会顧問 人と防災未来センター長）



3 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」選奨事業

(1) 趣 旨

阪神・淡路大震災の経験を通して学んだ自然の脅威や生命の尊さ、共に生きることの大切さを考える「防災教育」を推進し、未来に向け安全で安心な社会をつくるため、全国の子どもや学生が学校や地域において主体的に取り組む防災活動等を募集した。

選考委員会（委員長：河田恵昭 人と防災未来センター長）による審査により各賞を決定し、令和5年12月に兵庫県公館において、表彰式・発表会を開催するとともに、全国の児童・生徒・学生や学校関係者等の情報交流を図った。

(2) 実施体制

ア 主 催

兵庫県、(株)毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構（阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター）

イ 後 援

内閣府、総務省消防庁、文部科学省、国土交通省、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、関西広域連合、ひょうご安全の日推進県民会議

ウ 協 賛

独立行政法人都市再生機構

エ 事務局

(特非) さくらネット

(3) 募集期間

令和5年6月15日～9月30日

(4) 選考委員会

ア 開催日 令和5年10月31日

イ 場 所 兵庫県災害対策センター 本館3階会議室

ウ 選考委員

委員長 河田 恵昭 （人と防災未来センター長）

副委員長 遠藤 英二 （兵庫県防災監兼危機管理部長）

副委員長 木戸 哲 （(株)毎日新聞大阪本社編集局長）

委 員 安里賀奈子 （文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 課長）

委員 篠田 康二 (独立行政法人都市再生機構 西日本支社災害対応支援室長)
委員 鈴木あかね (兵庫県立舞子高等学校環境防災科 科長)
委員 村上 威夫 (内閣府政策統括官(防災担当) 付 参事官(普及啓発・連携担当))

(5) 選考結果

ア 応募数 77 校・団体

イ 部門賞

① 小学生の部 (応募数：8 校・団体)

区 分	学校・団体名	活動テーマ名
ぼうさい 大賞	四万十町立興津小学校 (高知県)	地域ぐるみのパワフル防災マップ作成活動
優秀賞	上尾市立今泉小学校 (埼玉県)	今っ子防災隊 まちづくりプロジェクト ～災害に強く誰にでも住みよいまちへ～
奨励賞	伊具郡丸森町立館矢間小学校 (宮城県)	自分たちで防災について課題を設定し、調べ まとめ発信する。

② 中学生の部 (応募数：16 校・団体)

区 分	学校・団体名	活動テーマ名
グランプリ (ぼうさい大賞)	大槌町立吉里吉里中学校 (岩手県)	巾着で命をつなげ ～HAPPY&SAFETY プロジェクト～
優秀賞	大阪市立白鷺中学校 (大阪府)	防災を自分事に！ ～地域防災の未来を担う白鷺中学校生～
奨励賞	いわき市立好間中学校 (福島県)	地域と共に、総合的な学習の時間における好 間中防災教育

③ 高校生の部 (応募数：25 校・団体)

区 分	学校・団体名	活動テーマ名
ぼうさい 大賞	熊本県立熊本農業高等学校 農業土木科 3 年生 (熊本県)	地域のコミュニティ拠点となる防災公園づ くり
優秀賞	三重県立紀南高等学校 (三重県)	三重県立紀南高等学校 防災きにゃんプロジェクト
奨励賞	和歌山県立熊野高等学校 Kumano サポーターズリーダー (和歌山県)	空き家問題と JR 車両を使用した避難訓練へ の参加

④ 大学生の部 (応募数：7校・団体)

区 分	学校・団体名	活動テーマ名
ぼうさい大賞	静岡大学教育学部 藤井基貴研究室 (静岡県)	教職を目指す学生による「日本の若者をBOSAIの世界へ：防災×IT」プロジェクト
優秀賞	関西大学社会安全学部 近藤誠司研究室 (大阪府)	みんなのぼうさい ～地域メディアでインクルーシブ防災を実現する～
奨励賞	龍谷大学政策学部 石原凌河研究室 (京都府)	対話による防災教育の変革 ～波及型学校防災教育の実践を通じて～

⑤ 特別支援学校・団体の部 (応募数：21校・団体)

区 分	学校・団体名	活動テーマ名
ぼうさい大賞	埼玉県立日高特別支援学校 (埼玉県)	アフターコロナで再びつながれひろがれ！ かわせみ防災
優秀賞	宮城県立支援学校女川高等学園 (宮城県)	防災教育を地域の生涯学習へ ～学校運営協議会との協働～
奨励賞	TEAM- 3A (兵庫県)	いつでもどこでもだれでも楽しくぼうさい

ウ 特別賞 (部門賞以外の賞)

① URレジリエンス賞

“レジリエンス (縮災)” という考え方に繋がる取組みに対し授与

区 分	学校・団体名	活動テーマ名
UR レジリエンス賞	岩沼市立玉浦小学校 (宮城県)	未来の玉浦を考えよう
	むかわ町立鵜川中学校 (北海道)	震災の記憶をタテとヨコにつないで未来の命を守る 鵜川中ぼうさい2.0
	西宮市立学文中学校 ゲンキグミ (兵庫県)	学文中校区の津波避難ビルが足りない？！！
	福島県立福島西高等学校 家庭クラブ (福島県)	「かもしれない」でつながろう！ ～西高から広げる防災対策～
	チーム Save Our Future (愛媛県)	GGB プロジェクト (Global Generation Bousai) ～世代、世界を超える防災教育～
	神戸学院大学 防災女子 (兵庫県)	女性から家庭、地域社会へ 「やってみたくなる防災」の発信
	津田新浜地区自主防災会連絡協議会 青少年部 津田新浜防災学習倶楽部 (徳島県)	地域と共に 未来を拓く 防災学習

② はばタン賞

被災経験と教訓から生まれた優れた取組みに対し授与

区 分	学校・団体名	活動テーマ名
はばタン賞	阿南市立橋小学校 (徳島県)	地域と共に 誰一人取り残さない持続可能で主体的な防災教育の推進
	多賀城市立東豊中学校 (宮城県)	「多賀城東翔塾」～地域とともに学び、活動する防災教育の実践～
	呉市立両城中学校 (広島県)	防災教育の深化 ～「自分の命は自分で守る力」の育成～
	学生防災士サークル KUISs BOSAI (兵庫県)	防災・減災を身近なものへ 『地域における防災意識の啓発』
	あすパ・ユース震災語り部隊 (兵庫県)	震災後生まれの若者による阪神淡路大震災の語り部活動

③ だいじょうぶ賞

被災や安心・安全なまちづくりを目指す優れた取組みに対し授与

区 分	学校・団体名	活動テーマ名
だいじょうぶ賞	京都府立東稜高等学校 マネジメントクラス (京都府)	高校生が先生！防災出前授業！
	成田ジュニアストリング オーケストラ (千葉県)	地域に生きる高校生が主導する防災探求の取り組み

④ フロンティア賞

過去に応募がなかった地域・分野での先進的な取組み、又は、初応募の優れた取組みに対し授与

区 分	学校・団体名	活動テーマ名
フロンティア賞	西予市立野村小学校 (愛媛県)	復興水辺域プロジェクト
	静岡市立清水飯田中学校 (静岡県)	自助・共助の意識を高め、防災を通して地域に貢献する生徒の育成
	兵庫県立姫路商業高等学校 地域創生部 (兵庫県)	二つの大震災の教訓を 100 年先の未来へ ～命の語り部 Project ～
	東京都立調布特別支援学校 (東京都)	地域のニーズに対応する防災体制の構築
	出張！ふれあいルーム (和歌山県)	災害時を想定した車中泊プロジェクト (プチ家出の練習♥)

⑤ 継続こそ力賞

過去数年にわたり継続的に実施された優れた取組みに対し授与

区 分	学校・団体名	活動テーマ名
継続こそ力賞	阿南市立津乃峰小学校（徳島県）	持続可能で、安定した日常としての防災教育
	青森市立東中学校（青森県）	「防災参観日」TX ～つながるトランスフォーメーション
	千葉県立館山総合高等学校 家庭クラブ（千葉県）	館総流！未災地での楽しい防災活動
	愛知県立大府高等学校（愛知県）	「防災戦隊 おぶれんじゃー」 —大府市民の防災意識を高めよう—
	神戸国際大学防災救命（DPLS） クラブ（兵庫県）	救急法講習会を実施し、命の大切さを広く市民に訴える。防災活動を通じ、災害に備え災害から命を守ることを市民に訴える。
	こどもプロジェクト1・2・3（徳島県）	Let's 防災！ ～今すぐできる身近な防災！～

(6) 表彰式・発表会

ア 日 時：令和5年12月23日（土）13：00～16：10

イ 場 所：兵庫県公館大会議室

ウ 参加者数：約180名

エ 内 容

- ・開会のことば：河田 恵昭（人と防災未来センター長）
- ・主催者あいさつ：齋藤 元彦（兵庫県知事）
木戸 哲（毎日新聞大阪本社編集局長）
- ・表 彰 式：1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰
防災力強化県民運動ポスターコンクール表彰
- ・発 表 会：1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」受賞団体による活動発表
- ・講 評：河田 恵昭（人と防災未来センター長）
- ・閉 会



【参考：賞の概要】

ア 対象部門

小学生、中学生、高校生、大学生、特別支援学校・団体の5部門

イ 対象活動

- ・自然災害から命と暮らしを守るための防災教育や防災活動の取組
- ウ 選考基準
- ・地域性：自分が住んでいる地域の実情に合った取組をしている。
 - ・独創性：活動内容に創意工夫があり、ユニークであること。
 - ・自主性：子どもたちが積極的に参加、考えながら取り組んでいる。
 - ・継続性：一過性の取組だけでなく、大人になってからも有効な防災意識を持ちつづけられる内容であること。
- エ 賞の種類と副賞 ※〔 〕内は今年度の受賞件数〈合計 40 校・団体〉
- | | |
|-------------|--------------------------------------|
| 「グランプリ」 | ぼうさい大賞の中から 1 校・団体（副賞：賞金（活動費）20 万円、盾） |
| 「ぼうさい大賞」 | 各部門 1 校・団体（副賞：賞金（活動費）10 万円、盾） |
| 「優秀賞」 | 各部門 1 校・団体（副賞：盾） |
| 「奨励賞」 | 各部門数校・団体〔5 校〕 |
| 「URレジリエンス賞」 | 該当数〔7 校・団体〕 |
| 「はばタン賞」 | 該当数〔5 校・団体〕 |
| 「だいじょうぶ賞」 | 該当数〔2 校・団体〕 |
| 「フロンティア賞」 | 該当数〔5 校・団体〕 |
| 「継続こそ力賞」 | 該当数〔6 校・団体〕 |

（7）記録誌の発行

今年度の上位受賞校の活動概要等を、今後の防災教育の実践活動を行う上での参考となるよう記録誌として発行した。

2 項 メールマガジン・ホームページ等

研究員による実践的な防災研究の成果やセミナー開催等の情報を記載したメールマガジンを 17 回発行した。主な配信先は災害対策専門研修の受講者、友の会会員、メディア関係者である（メールマガジン登録 1,331 件）。

また、イベント開催等のお知らせを、当センターのホームページの「お知らせ」で 111 回発信した。

さらに、年 6 回発行している公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構ニュース「Hem21」内の「MiRAi」のページから、センターの活動成果を情報発信した。

Ⅵ章 事業評価委員会

1 事業評価委員会



1 節 事業評価委員会

(1) 第23回事業評価委員会の開催

- ① 実施時期：令和5年12月12日（火）10：30～12：00
- ② 開催場所：人と防災未来センター東館6階会議室
- ③ 出席委員：林委員長、福和副委員長、市川委員、中北委員、中村委員
上村委員、小谷委員（代理出席）
- ④ 検討事項：各委員が事務局からの事前説明や資料を基に独自の事業評価を行った。
この評価をベースに委員会で議論を行い委員会としての評価を作成した。

(2) 事業評価委員会委員名簿（令和5年度末現在）

氏 名	役 職
林 春男 (委員長)	京都大学名誉教授
福和 伸夫 (副委員長)	名古屋大学名誉教授 あいち・なごや強靱化共創センター長
市川 宏雄	日本危機管理防災学会長
中北 英一	京都大学防災研究所長・教授
中村 順子	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸 理事長
上村 昇	内閣府大臣官房審議官（防災担当）
小谷 敦	消防庁国民保護・防災部長

